早朝から大豆畑の「除草」活動

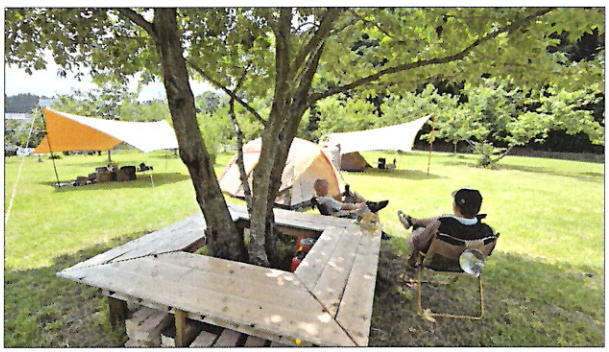
写真上：青々と葉を茂らせて成長した大豆の除草を行ないました。写真左下：コックを回してお湯を出す。
写真下：６月１３日に種蒔きをした時の畑のようす。

再生した畑で育っている大豆（たのくろ豆＝在来種）。その大豆畑の２回目の「除草」を７月２６日（日）に実施しました。大豆栽培チーム（種蒔きから除草、収穫、味噌作りまでの一連の活動に取り組みます）と、活動に共感いただいた前泊のキャンパーさんの計７名の作業でした。
猛暑下で熱中症も心配される時期ですので、活動は午前７時開始。休憩・飲水タイムをはさみつつ１０時までに、広い大豆畑の除草を完了しました。
この夏の時期に除草しておけば、あとは大豆がしっかりと葉を広げて成長し、雑草の生育を抑制してくれます。
作業自体はボランティアですが、冬場に行なう「味噌作り」の参加費が1500円割引になります。晩秋の収穫、そして冬の味噌作りが楽しみですね。

適度な距離で「ふたり・ソロキャン」

紹介／常連サン！ ③

埼玉県からお越しの常連、大村さんと鶴さん。ほぼいつもお二人でキャンプにいらっしゃいます。
彼らのキャンプスタイルは、話ができる程度の距離にそれぞれがソロでテント・タープを設営し、それぞれのキャンプを楽しむというもの。グルキャン（グループキャンプ）ならぬ「ふたり・ソロキャン」です。



テント類は共に複数所有し季節や気分で変えてきます。
キャンプ歴は共に８年。しもはじ埴輪キャンプ場には「年に６泊ほど」とのこと。
「最近はここ（しもはじ）しかキャンプに来ないね」
「『キャンプに行こう』となったらここだから」
と笑います。
しもはじ埴輪キャンプ場を選択するその理由を、鶴さんは、
「ホームキャンプ場なので落ち着く。アットホームな雰囲気な所が気に入っています」
と言い、大村さんは、
「スタッフがＧＯＯＤ！」
と言います。
キャンプ場側としてはうれしい限りの評価です。
お二人のキャンプ目的はそろって「リフレッシュ」。美味しいお酒と楽しい会話で過ごしていらっしゃいます。そんな楽しい会話にスタッフも混ぜてもらうこともしばしばです。
お二人のお気に入りのキャンプのアイテムは、これも共に「薪ストーブ」をあげています。寒い季節に持参した薪ストーブで暖をとり、食事をつくる楽しみを見つけてしまったのですね。

７月11日（土）も「ふたり・ソロキャンプ」。テント・タープを設営したら、あとはコナラの木陰でビールタイム。仲良しのふたりにはこの距離感がいいようす。